

2017年度 自己点検・評価【聖和短期大学】

C票

<目標、行動計画>進捗確認シート

提出日：2018年2月22日

2021年度に向けた教育研究目標

責任者	聖和短期大学学長	作成部局	聖和短期大学
-----	----------	------	--------

【A票：教育研究目標1】

(タイトル)
保育に関する専門的な知識や技術を教授し、保育者として高い資質・能力を育む。

(狙い内容)
子ども・子育て支援新制度への対応と学習効果のさらなる向上をめざして、新たなカリキュラムを編成する。また新カリキュラムにおける授業を有効に実施するため、教員の教授内容への周知・徹底を図る。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

子ども・子育て支援新制度に対応したカリキュラムを編成して保育に関する専門的な知識や技術を教授し、保育者として高い資質・能力を育む

<変更時記入欄>

<変更理由記入欄：2021年度のめざす姿(目標)を変更した場合、その理由を記入>

2. 達成度評価

評価指標	新制度の周知・徹底。新カリキュラムの編成および授業内容の周知	評価尺度	A：完全実施 B：文部科学省に新教育課程を提出した C：学内では検討している D：検討していない
	<変更時記入欄>		<変更時記入欄> A： B： C： D：

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
2016年度 自己点検・評価時 点		B 教務委員会、学長 室会を中心に行っ た。	C 教授会で学長が説 明した。	新制度の周知・徹底(非常勤 講師対象)	現行カリキュラムの 見直し、授業内容 についての理解	新カリキュラム案の 作成、検討。 授業内容について の理解	新カリキュラム決 定、シラバス作成	新カリキュラ ム スタート	総括
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A~D	B	C	実績	C	B	A	A	A
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	教務委員会、学長 室会を中心に行っ た。	教授会で学長が説 明した。		新カリキュラム検 討・決定、シラバス 作成	新カリキュラムの授 業内容についての理 解	新カリキュラムス タート	シラバスの充実・教 育内容の点検	カリキュラム、 シラバスの見 直し

【2017年度の進捗状況について】

2019年4月施行の教育職員免許法改正に伴う教職課程再課程認定および保育士養成課程の改正も予定されており、教育課程基本方針策定委員会にて、新カリキュラム案を作成のうえ、2018年4月中に申請予定である。

<変更理由記入欄：評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2019年4月施行の教育職員免許法改正に合わせて、新カリキュラムをスタートさせるため、当初目標を2年間前倒しで実行する。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？

→ はい・いいえ

＜評価専門委員・第三者評価結果＞ 2017年12月22日公示

- ・ 2019年4月からの教育職員免許法改正による新しい制度への対応が求められていますが、その実施に向け順調に進展しています。(A)
- ・ 幼児教育・保育の将来動向を収集し、精確に判断し、計画を作成し対応をしているところは、大変評価できます。
たとえば、「3.年度毎の目標値」の【2017年度の進捗状況について】
「2019年4月施行の教育職員免許法改正に伴う教職課程再課程認定および保育士養成課程の改正も予定されており、教育課程基本方針策定委員会にて、新カリキュラム案を作成のうえ、2017年度中に申請予定である。」と記されているように、早く行動すると、余裕を持って対処できるので、大変優れています。
- ・ 2021に向けての行動計画も、周到な準備の第一は、2年間ほどの計画の前倒しです。
不測の事態に遭遇したときに、余裕をもって事態を解決できると思われ、大変優れています。(B)
- ・ 再課程認定への対応に合わせて、目標、行動計画の再策定の必要性を検討することが求められます。
・ アクティブラーニングやハンズオンラーニング科目の設置ができないかどうかの検討が求められます。(C)
- ・ 行動計画①および行動計画②の2017年度の進捗が目標を上回っていることについて、その理由を分析してください。
たとえば、目標設定が甘かった場合は、今後、目標をより正確に設定してください。
また、何らかの理由で進捗が早くなった場合は、その経験を他にも活かせるよう努めてください。(F)
- ・ 子ども子育て支援制度への対応が順調に進展しています。(G)
- ・ 教職免許法改正をにらんだ対応が出来ており、評価できます。(H)
- ・ 今後も引き続き法令等の変更に注意を払い、適切な対応が必要です。
適切に対応されており、評価できます。(J)
- ・ 教育職員免許法改正の対応を着実に進めていくことを期待します。(K)

【A票：教育研究目標2】

(タイトル)

保育に関する研究成果を発信するとともに社会に還元し、保育界、地域社会との連携を強化する。

(狙い内容)

保育に関する研究成果を広く社会に発信、還元し、社会のニーズに応えることをねらいとして、研究活動の充実を図る。また保育界、地域社会との連携強化をねらいとし、実習協議会、リカレント教育、職業実践力育成プログラム(BP)、就職協議会等の実施、キリスト教教育・保育研究センター(RCCEC)による公開講座、関西学院子どもセンターにおける活動、学生ボランティア活動、教職員による社会的活動等の充実に努める。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

保育に関する研究成果を広く社会に発信、還元し、社会のニーズに応えるために研究活動の充実を図る。また、新たに導入された子ども・子育て支援新制度への対応と実施に当たっている保育界、地域社会との連携体制をより強固なものとする。

2. 達成度評価

評価指標	①研究成果の公開発表・発信件数、公的研究資金の獲得状況 ②保育界、地域社会との連携強化を図る各種取組みの実施実績	評価尺度	A：50%の増加 B：25～49%の増加 C：現状～24%の増加(2015年度のみ現状のままをCとしている) D：減少
-------------	---	-------------	--

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
2016年度 自己点検・評価時点		C 10月定例教授会にて周知した。	C 値は3月末日に確定	C 6～9%の増加	C 10～19%の増加	C 20～29%の増加	B 30～39%の増加	B 40～49%の増加	A 50%の増加
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度： A～D	C	B	目標	B				
	見込・ 実績・ 目標 (値又は 状況)	10月定例教授会にて周知した。 ①44件 ②59件	①60件 +36% ②70件 +19% 平均+26.2%	2018年3月末時点 の実績値2018年9 月末提出の教員業 績書、研究データ ベースのデータをも とに評価し記述す る。					

【2017年度の進捗状況について】

2017年度の最終値(実績)は年度末時点で確定する。なお、教員に研究のインセンティブを持たせる方法として、関西学院大学が運営する研究者データベースへの相乗りが実現している。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか？ → はい ・ いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 社会連携に向け、引き続き着実な取組実践を期待します。
- ・ 今後、社会連携については量的指標もさることながら、取組内容等質に係る評価指標を開発することにより、評価の精度を上げられることを期待します。(A)
- ・ 研究データベースのほかに、教員の研究に関し関西学院大学との連携が可能な事項がないかどうかを検討することが期待されます。(C)
- ・ 具体的な記述が求められます。(E)
- ・ 行動計画①の2016年度および2017年度の進捗が目標を上回っていることについて、その理由を分析してください。
たとえば、目標設定が甘かった場合は、今後、目標をより正確に設定してください。
また、何らかの理由で進捗が早くなった場合は、その経験を他にも活かせるよう努めてください。(F)
- ・ 研究成果、公的資金獲得状況、連携実績は順調に進展しています。(G)
- ・ 研究成果の公開・発信件数が順調に推移しており、引き続きの努力が期待される。(H)
- ・ 目標に向かって順調に進捗しており、今後の進展が期待されます。(J)
- ・ 引き続き積極的な研究成果の発信が期待されます。(K)

【A票:教育研究目標3】

(タイトル)

一人一人の学生の夢の実現に向けて、学生支援を強化する。

(狙い内容)

学生に対して適切な指導助言を行う体制として、アドバイザー制(クラス担任制)を充実し、各アドバイザー担当教員は、学生生活全般にわたり、きめ細かく修学・生活・進路の支援を行う。
 学生の各々の状況に応じ、勉学を安心して続けられるよう、学生の生活を支援するため、各種奨学金の制度を適切に運用する。
 進路支援の強化のため教員と聖和キャンパスキャリアセンターとの連携でおこなう就職支援委員会の活動を行い、現在の100%近い就職率を維持できるように進路支援を行う。

1. 教育研究目標を実現する上での2021年度のめざす姿(目標)

入学してきた学生がもつ保育者となる夢の実現のため、学生支援を行い、現在の高い就職率を維持する。

2. 達成度評価

評価指標	就職率 幼稚園教諭免許・保育士資格等の取得率	評価尺度	A : 100% B : 95% C : 90% D : 80%
	<変更時記入欄> ①就職率 ②幼稚園教諭免許の取得率 ③保育士資格の取得率		<変更時記入欄> A : B : C : D :

3. 年度毎の目標値

		2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
2016年度 自己点検・評価時 点	評価	C	C	C	C	C	C	C	C
	指標	就職率:98.8% 幼稚園免許取得: 94.4% 保育士資 格取得87.7%	就職率:98.6% 幼稚園免許取得: 94.4% 保育士資 格取得90.0%	就職率90%以上、免許・資格 取得希望者の取得率90%の 維持	就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	就職率90%以上、 免許・資格取得希 望者の取得率90% の維持	就職率90%以 上、免許・資 格取得希望 者の取得率90% の維持	就職率90%以 上、免許・資 格取得希望 者の取得率90% の維持
2017年度 進捗状況 & 今後の 目標値	評価 尺度: A~D	B	A	A					
	見込 実績・ 目標 (値又は 状況)	就職率:98.8% 幼稚園免許取得: 94.4% 保育士資 格取得87.7%	就職率:98.6% 幼稚園免許取得: 94.4% 保育士資 格取得90.0%	見込み 値は3月末日に確 定					

【2017年度の進捗状況について】

評価指標については2016年度評価結果を受けて、変更した。なお、就職率の維持に向けた新しい取組として、西宮市・伊丹市・尼崎市による学内での保育所就職フェアおよび本学の就職圏対象の就職懇談会を開催した。

<変更理由記入欄:評価指標、評価尺度、年度毎の目標値が変更有の場合>

2016年度評価結果の提言を受けて、評価指標を①就職率、②幼稚園免許取得率、③保育士資格取得率と別々に表記した。

2017年度の取組み状況の確認

2017年度の取組みは、当初の目標どおりに進んでいるか? → はい・いいえ

<評価専門委員・第三者評価結果> 2017年12月22日公示

- ・ 学生支援において、アドバイザー制(クラス担任制)の導入などにより、学生の修学・生活・進路支援を充実させていることはたいへん評価できます。
- ・ 新たに地方自治体と連携した就職フェアの実施など、学生支援において着実な取組の実施など評価できます。(A)
- ・ 2018年度から予定されている関西学院大学への編入学推薦制度枠の拡大に伴う体制整備(推薦基準、編入学後の単位取得の軽減策等)のための行動計画の策定の必要がないかどうかの検討が期待されます。(C)
- ・ 適切な対応が取られています。引き続き目標達成に向けて改善を進めてください。(E)
- ・ 行動計画①の2016年度および2017年度の進捗が目標を上回っていることについて、その理由を分析してください。たとえば、目標設定が甘かった場合は、今後、目標をより正確に設定してください。また、何らかの理由で進捗が早くなった場合は、その経験を他にも活かせるよう努めてください。(F)
- ・ 就職率、資格取得率は、順調に推移しています。(G)
- ・ 就職支援対策に対する学生の満足度について、評価尺度の見直しが望まれる。(H)
- ・ 高い水準が維持されており、高く評価できます。(J)
- ・ 就職率や資格取得率は高水準を維持していることが窺えます。(K)